

減災ニュース

和田三丁目東町会

減災プロジェクトチーム 情報X

スタンドパイプを消火栓にセットして、放水を始めるまでの手順と注意事項をまとめました。

スタンドパイプの接続手順

- ① 消火栓鍵を使い、マンホールの蓋をてこの要領で開ける。重いので腰に注意。また、足先をはさぬよう黄色の枠外に足を置くこと。
- ② スピンドルドライバーの四角い先を消火栓内の四角い突起に差し込む。不意に蓋が閉まらないよう、作業終了まで必ず差し込んだままにしておくこと。
- ③ スピンドルドライバーを左（反時計回り）にゆっくり回し、マンホール内の丸い筒の突起部分から水が出るか確認する。



- ④ スタンドパイプの2本の取っ手を持ち、消火栓の丸い筒の部分にガチッというまで力を入れて押し込む。押し込んだら、スタンドパイプを引っ張って接続されたか確認する。



- ⑤ スタンドパイプにホースを接続する。必要に応じて、ホースを連結する。ホースの先はオスメスになっているので逆に接続しようとしても接続できない。
- ⑥ ホースの先に筒先を接続する。 筒先ノズル
- ⑦ ホースをすべて伸ばす（ねじれていると水が出にくくなる）。
- ⑧ 筒先保持者は筒先を目標に向け消火栓待機者に放水開始の合図をする。
- ⑨ 消火栓待機者はスピンドルドライバーを左（反時計回り）に回し放水を開始する。訓練の時はさほど回さないが、本番の火災発生時には徐々に回してゆき全開まで回すこと。一気に全開にすると筒先が水圧により暴れまわることがあるので注意。なお、放水は必ず放水開始の合図を確認してから行い、筒先はしっかり保持すること。



次葉に続く

減災ニュース

和田三丁目東町会

減災プロジェクトチーム 情報X-2

スタンドパイフに必要な人数と役割

理想的には消火栓に2名（マンホールの蓋を開けスタンドパイフをセットし、合図に応じスピンドルドライバーを回す。内1名は指揮者として全体的な判断を行う）伝令1名（消火栓と火元が離れていた場合や、四つ角があり見通しがきかない場合に消火栓と筒先の連絡係）筒先2名（1名はホース保持、1名は筒先保持）の5名いれば申し分ありません。しかし、火急の場合で人数がそろわないときは、最悪2名（消火栓1名、筒先1名）でも操作は可能です。初期消火は時間との勝負です。人数がそろわなくても作業を開始してください。

その他の注意事項（必要な判断など）

火元に水は届くか（筒先またはホース保持者）

家の中が燃えているのに外から水をかけても火事は消せません。家の中に入りこんで放水することも必要なケースもありえます。放水が火元に届かない場合は初期消火をあきらめてください。なお、家の中に入ったの消火活動は自分が火事に巻き込まれないよう十分な注意が必要です。また、消火人数が揃わなくて筒先を1名で受け持たなければならない場合は、家の中に入ったの消火活動は避けてください。

逃げる判断（指揮者）

火の回り具合を見て、天井まで火が回っている場合あるいは火炎が人間の背丈を超えた場合は消火活動をあきらめてください。どの時点で逃げるかは消火者の命がかかった重要な判断です。最初からこの火勢では初期消火は無理との判断も必要です。なお、逃げる時には、必ず消火栓を閉め、マンホールの蓋を閉じることを忘れないでください。

自分の命優先

言うまでもないことですが、ご自分の命が最優先です。くれぐれも無理はなさらないでください。町会の消火訓練は、あくまで自分たちのできる範囲で初期消火活動を行ってほしいというものであります。



お問い合わせ

松尾 03-5932-0083